

# 名高同窓会報

発行所 名寄市徳田 204 番地 1  
 北海道名寄高等学校同窓会  
 事務局 TEL 01654-3-6842  
 FAX 01654-3-6841  
 発行人 会長 山崎博信 (名高4期)  
 印刷所 (有)喜多印刷所

## 左右白線の髷スカート

北海道名寄高等学校同窓会副会長  
 (名高女十一期) 中枝かをる  
 (旧姓松田)



私は昭和十六年三月に庁立名寄高等女学校十一期生として卒業しました。

同窓の皆様は、こんなことを聞くだけで、ビックリすることと思います。当の本人でさえ化石の様に思えてなりません。七十六年前のことを書くのですから、何卒、御判読下さい。

今年で満八十八才を過ぎたこんな私ですが、少女時代があり、青春時代もあり、楽しい思い出も沢山ありますが、今回はその中でも強烈に心に残っていることを書きましょう。「あーそうそう」と思われる同窓の方がこの市内に沢山いらっしやいました。

私は少女時代を西二条南三丁目まで過ごし、側には電気会社(今の北電)が歴然として残っており三丁目通りの中心的存在をなしていました。

その真前には中杖クリーニング店、山下家具店、遠山助産所、加藤雑貨店、寺島自転車店、卵子屋があり、その東寄りには郵便局、東洋軒菓子店、北本ミシン店、町田雑貨店、吉川製粉所とあり、今の五丁目、六丁目よりもっと活気があり、人情に満ち、東京の下町の存在の町並みであり、私はここで良き時代を過ごすこ

とが出来ました。

私の父はその頃三十七才位と思いが、バイオリンが好きで、近所の同じ年位のおじさん達といつも流行歌を唄い、酒を飲み、客の絶え間のない家でした。

その様な環境で育った私は、将来の夢をいっぱい持っていました。それは名高女の学生さんの制服で、特にスカートには左右に約三センチメートルの白線が二本ずつ入りとても魅力があり、憧れの的でもありました。

「よし、入れるものなら名高女に入つて、あのスカートを履きたい。」と思ひ、小学校五年生頃から入試のために勉強し、無事合格しました。

憧れていたスカートも履けたし、ピカピカの革靴も買ってもらい、時計も右手につけて、入学式も無事終わり、担任も決まりました。

学生生活は意外に厳しく感じました。一番驚いたことは通学路のことです。私の家は三丁目ですから、家の前からまっすぐ大通りに出てそのまま学校に直行することになります。雨降りの日に雨宿りのために寄り道でもして帰るものなら、翌日には職員室に呼ばれて注意を受けるのです。気ままに育っていた私には大変厳しく感じました。もっとも日中戦争も

だんだんと激しくなり、時折学校の中でも配属将校がうるうるしている時代で、厳しいのも仕方ないことと思ひました。それでも、毎時間教師が変わり、講義を受けることが嬉しく、楽しい毎日です。日中戦争が激しさを増し、出征兵士を

日の丸の旗を持って見送るのです。妻との別れ、親子の別れ、家族がいなくて一人淋しく出征する人がいて、私は良くても悪くても泣きました。死んで帰れと云われている人です。その方達はほとんど戦死して白木の箱となって名寄に還つてきました。悲しいことです。

そんな中でも先生方はとても優しく御指導下さり、楽しいことも沢山ありました。

そうそう思い出しました。あれは昭和十二年の一年生の時と思います。真夜中に消防署のサイレンがけたたましく鳴り、父が外に飛び出して「大変だ。名寄中学校が燃えてるそうだ。」との声にビックリして外に出ました。名寄の空が半分真っ赤になってるのです。方向は大橋方面です。私は咄嗟に「明日から中学生はどこで勉強するのだろうか」と思ひながら、朝方床につきました。

翌日いつもの通り三丁目から大通りに出て、学校に着きましたが、昨夜の火事の話でもちきり。担任の先生は会議中ではなかなか来ません。そのうちに全員体育館に集合の命令があり、全校生徒約四百名が集合しました。校長先生から、昨晩の後の経過について話され、「名中の二年生が、当女学校の校舎で勉強することになった。ついては通学路のことであるが、道路を挟んで右側が中学生、左側が女学生」と云うことで決まったので、くれぐれも間違いない様に」との訓示でした。その後、「尚かつ教室は、職員室を中心として右の教室が中学生、左の教室が女学生と決まりましたので、用事の時は勝手に中学生の方に行かないで必ず担任教師に申し出て、許可を得てから行くことを必ず守って下さい。」と厳重注意がありました。

「男女七才にして席を同じくするなかれ」を何所の誰が云ったか忘れましたが、全くその通りでした。でも同じ屋根の下の向側で中学生が勉強しているのだと思うだけで、学校生活に張り合いが出てくるもので、頭髮はきちんと整え、革靴はピカピカ。女学生ながら、いいことだと思ひました。スカートも髷が多いとアイロンかけも大変です。しかし、ちゃんとしないと、だらしく恥ずかしい。クラスの中で誰が言うともなく「毎晩、敷布団の下に髷を揃えて敷いて寝るといいよ。」とのこと。成程、きれいに髷はつきましたが、髷の目の跡もクッキリと付いてしまいました。困ったものだ、思い乍ら聞紙を敷くとよい。」と誰かが言いましたので、試してみると、本当にそうでした。髷の目は全く見えなくなり、とても綺麗な髷ができました。身綺麗にするのも大変で、「体誰のためにするのー」と自問自答もしておりました。

そんなこんなで、少しは少女という女性らしくなつてゆく私を見て、喜んだのは両親で、「同じ屋根の下で勉強をするということでもこんなにも違ってくるものか。」と、仲間の友達に話していた、後からききました。一人っ子の私は何もかも両親任せにしていたので、深く反省もしてきました。それから私もぐんぐんと変わってきたと思ひます。中学生と同じ屋根の下で勉強したことに、深くお礼を言いたいのです。

何かノスタルジックなことばかり書きましたが、現在同窓会で副会長の末席を汚しております責任上書きましたので、御判読下されば幸いです。

皆さん、是非同窓会に御出席下さいませんか。名寄は、まだまだ古き良き時代の所が残っております。名高の前庭には、庁立名寄高等女学校の記念碑も建てております。お待ちいたします。

北海道名寄高等学校長

丸山 年民



同窓会員のみなさまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。私は、

この4月に世界自然遺産知床にありま唯一の高校、羅臼高校より赴任しました。勤務校は名寄高校で9校目となります。道北の学校は初めての勤務となりますが、どうぞよろしく願います。また、昨年度は校舎の敷地外側に教育活動の報告などを地域に発信する多目的掲示板を設置していただきました。生徒・教職員の活動意欲にもつながっていると感じております。心より感謝申し上げます。

さて、本校は今年度創立92年目を迎えますが、ここで学校の近況を報告させていただきます。進路に関しては、平成24年度卒業生において国公立大学の合格者数は九州大学・北海道大学など30名、道内私立大学149名、道外私立大学14名、短大21名、看護系を含む専門学校35名、公務員・民間企業への就職27名となっております。

また、多くの生徒が学習と両立すべく部活動にも努力しています。今年度の部活動加入率は91.5%で、バドミントン部、ソフトテニス部、陸上部、剣道部、卓球部、サッカー部が高体連全道大会に出場しました。文化系の部においては吹奏楽部も全道大会への出場を決め、新聞局は全国高総文祭に11年連続12回出場という輝かしい結果を残しています。ボランティア局や家庭クラブの活動も活発化しており、陸上部の小学生対象陸上教室や野球部のふれあい家族交流会など多くの部や生徒が、地域とのつながりを大切にした地域とのコラボ活動を実践しています。

学校運営推進・連携事業については、名寄市立大学との高大連携事業、センター校として地域キャンパス校である美深高校との連携(出張授業、遠隔授業、生徒間交流等)、北海道高等学校学力向上推進事業推進校(国語)、道北サイエンスコンソーシアム(協力校)、名高英語力向上プロジェクト(MEP)の推進など様々な取り組みを継続しており道北の中心校として注目されています。

名高の教職員は、教育目標の達成に向けて「社会人基礎力の育成・学力の保証と教育の質の向上・生徒が目指す大人の集団である教職員」を3本の柱として大切にしながら、真摯に取り組んでおります。同窓会員のみなさまの期待に応えられるよう全力を尽くしてまいります。今後みなさまに生徒の活動を温かく見守っていただき、変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

また、多くの生徒が学習と両立すべく部活動にも努力しています。今年度の部活動加入率は91.5%で、バドミントン部、ソフトテニス部、陸上部、剣道部、卓球部、サッカー部が高体連全道大会に出場しました。文化系の部においては吹奏楽部も全道大会への出場を決め、新聞局は全国高総文祭に11年連続12回出場という輝かしい結果を残しています。ボランティア局や家庭クラブの活動も活発化しており、陸上部の小学生対象陸上教室や野球部のふれあい家族交流会など多くの部や生徒が、地域とのつながりを大切にした地域とのコラボ活動を実践しています。

### 同期会便り

#### 名高第十三期C組クラス会

十三期C組クラス会幹事

鈴木 守記

去る、六月二十二日(土)名高卒業五十二年にしてクラス会を行った。クラス会呼びかけの名称は「半世紀をこえて」名寄高等学校十三期卒業(昭和三十六年)C組「クラス会」。会場をグランドホテル藤花として行った。

かつて卒業後は、名寄、旭川、札幌の在住卒業生が持ち回り当番として同期会を行ってきた。同期生は6クラスで300名を超え、同期会には何時も約100名近くが駆けつけ近況の会話、思い出話で盛り上がった。しかし、年齢も七十歳なる名寄での同期会(平成二十三年六月)を最後に、同期会は行わないことになった。それは、加齢と共に集まるのが大変になってきたし、準備する幹事も大変だか

らだ。これからは、クラス毎に集まるう」を合言葉に同期会を終了した。

4月上旬にクラス会の案内を出し、早速出席の返事が届いた。北は稚内、南は長崎県から駆けつけてくれた。出席者二十一名、クラス総勢で五十名余りだから、約半数近くのクラスメートが集まり、みんなで懐かしい校歌を合唱した。永い歳月の中に、亡くなられた級友、伴侶を失った級友等、様々な話題が、夜が更けてゆくの忘れさせた。会話のすべてが青春時代へのタイムトンネルだった。旧校舎の中庭での昼食後の三々五々の語らいが脳裏によみがえった。

本来なら、恩師相馬先生を囲んでのクラス会にしたかったのだが、卒業後、半



名寄高等学校第13期卒業C組クラス会 平成25年6月22日グランドホテル

世紀の間一度も行わなかったクラス会に悔いが残る。でも、今回のクラス会を相馬先生は、天国から見ているくれ「み



んな元気でなによりだ」と言ってくれて  
いるだろう。

翌朝、ロビーで名残を惜しんだ。夕べ  
の余韻がたつぷりと脳裏に焼き付いて、  
誰一人なかなか帰ろうとしなかった。

「あんまり人数の欠けないうちに、また  
やろう」と、声を掛け合い家路についた。  
幹事として、忙しくもあったが、みんな  
の喜んでくれたあの笑顔が何よりものご  
褒美だった。

## 話しに花咲き時はあつという間に

### お元気な名取昭先生に

#### 若さのパワーも頂く

### 札幌で8期（昭和三十一年卒業） 全体会開く

「ヤー元気ですね」「みんなに会えて嬉  
しいわ」思わず抱き合う仲良しもいまし  
た。

六月二十日の午後、札幌市北電北2条  
クラブのロビーに歓声が沸き起こりまし  
た。名高8期生の華やかな声がひっきり  
なしに続いていました。

8期札幌会（宮前克宏会長）の主宰で  
8期全体会が行われました。遠くは愛媛  
松山、神戸など本州から10人、北は稚内、  
枝幸から、合わせて59人の元気な仲間が  
集まってきました。名寄高校入学60年の  
節目の集いでもありました。

そして名取昭先生が豊饒（かくしやく）  
とした姿で現れると歓声は一層大きくな  
りました。先生は私たちが入学する前年  
の1952（昭和27）年に着任され71年

までの19年間、英語の授業を担当されま  
した。結婚されたばかりで、若々しく明  
晰な話しぶりで、とくに女子生徒には絶  
大な人気であつたことを思い出します。

全員で集合写真を撮ったあと、校歌を  
名高音楽部の歌うCDにあわせて歌いま  
した。ところが、出だしに名寄駅に列車  
が到着する車内放送と名寄駅の「なよ  
ろーなよろー」のアナウンスが流れ、あ  
たかも通学生の気分になったり、故郷名  
寄に帰る気持ちにさせられ、思わずしん  
みりともしました。校歌は元気に歌う  
ことが出来ました。これは幹事の赤坂博  
君のアイデアでした。

宮前札幌会々長が「8期会を今回で終  
の会にしないために喜寿、傘寿を目標に  
健康一途頑張りましょう」と挨拶。続け  
て全員で同期の物故者59人と私たちの担  
任であった対馬仁郎、深山明、中辻藤雄、  
大塚勉各先生4人に黙祷を捧げました。

名取先生は「8期生は私の思い出深い  
学年で、皆さんに会えて嬉しい。健康で  
長生きするために、己を大事にし、愛  
することです」と米寿とは思えない張り  
のある声で話され、私たちは大いに励ま  
されました。

次は学校時代を思い出して参加者の出  
席を取りました。AとF組毎に名前を幹  
事が呼称、呼ばれた人が手を挙げ、立ち  
上がるのみならず「遠いところからご  
苦労さん」などと拍手が湧いていました。

乾杯の音頭は鎌倉から来た岡元邦夫関  
東会々長。韓国との交易を手がけて今も  
現役。みんなにお土産をと韓国の蜂蜜醬  
油をプレゼントしてくれました。



2013年6月20日 於 北二条クラブ（札幌市中央区北2西21）

宴会は飲んだり食べたりよりも話に花  
が咲いて時間はあつという間に過ぎて行  
きました。斉藤晃君は得意のカメラでそ  
れぞれのグループや仲間をパチリパチリ。  
そしてその場ですぐプリントしてくれま  
した。時代の進歩と交流の深まりをすぐ  
感じさせてくれる早業に感心したり喜ん  
だりでした。向井徹磨君、林隆一君がユ  
ニークな語りも聞かせてくれました。

「林君って、あんな面白いことを言う人  
だったんだ」とは女性の声。  
閉宴の挨拶は石川孝雄名寄会々長。  
「昨日、名寄の仲間と話合つて次回は  
名寄でやろうということになりました」  
と話すと、賛同と喜びの声に包まれました。

2次会は、別室で全員参加。ビンゴ  
ゲームを企画・運営してくれたのは嵯峨  
慎次郎君、反甫実君、大谷勝枝さん。景  
品は全員に当たる「白い恋人」「札幌農学  
校」など北海道銘菓で、「よかつたなーこ  
れでうちへのお土産が出来た」と皆さん  
大喜び。稚内の伊戸川蓉子さんはつまみ  
の海産物をプレゼント、これまたみんな  
の舌を喜ばせました。そんな雰囲気にな  
まれたのか、福士春雄旭川会々長は「旭  
川のピヤシリ会も再開の動きです。8期  
会も名寄の次は旭川と考えたい」と発言。  
大いに会を盛り上げてくれました。

各部屋に入つてからも話題は途切れず、  
21日夏至の日の、早い朝まで語りあつた  
ところもあつたようでした。

次の朝、食事を取つたら随時散会と  
なっていました。朝食を取りながらの  
話しも名残り惜しく、食堂の方々には  
すつかり迷惑をかけました。

8期会の集まりは、これまで宴会など  
の次の日は修学旅行式に、見学の旅もし  
ていましたが、今回は見学などをやめて、  
じっくり語り合おうとの企画にしました。  
しかし参加者のパワーで盛会に終わらせ  
てもらいました。本当に嬉しく有り難い  
ことでした。

最後に8期生の現況を記しておきます。  
8期生は転校した人を含めて全員で30  
8人。逝去された人59人。住所不明の人  
23人。出席者59人。やむなく欠席した人  
136人。返信のなかった人31人です。

（本会幹事長・宮田汎記す）

# 平成二十四年度 名高同窓会総会・懇親会実施される

## 総会・懇親会盛会に終了

平成二十四年名寄高校同窓会総会・懇親会が去る平成二十四年十月十二日(金)に例年通りグランドホテル藤花において約百三十名の参加を得て行われました。

総会では、山崎博信同窓会長、千原校長が挨拶をしてから議事に移りました。二十三年度の各報告、二十四年度の計画等、全ての議案が承認され、無事に総会

を終えることが出来ました。参加していただきました会員の方々のご理解とご協力に心より感謝いたします。

総会後の懇親会は、当番幹事である名高二十八期、三十八期、四十八期の方々のご尽力で盛会に行われました。協賛いただきました各商社様には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

毎年総会を見守る  
応援団旗



挨拶をする鈴木札幌副支部長



挨拶をする千原前校長



挨拶をする山崎同窓会長



来期の当番幹事と  
猿谷幹事長



乾杯の御発声の名取先生



総会司会の山崎さん



茂木当番幹事長

### 平成24年度 協賛商社一覧 敬称略順不同

- |          |             |
|----------|-------------|
| 鈴木写真館    | 柴田時計店       |
| 木賀商店     | 志水商店        |
| 北方印刷     | 黒川商店        |
| 北星信金     | 宮崎・靴スポーツ    |
| 北昭産業     | 喫茶 ブラジル     |
| 北海道電力    | 吉川印刷        |
| 梅野博・新事務所 | 喜多印刷所       |
| 梅村商店     | 喜信堂         |
| 湯川名文堂    | アフター名寄支店    |
| 東洋肉店     | 三津橋農産       |
| 東洋製麺     | まごころ弁当      |
| 定木税理士事務所 | ベスト電器駅前店    |
| 辻薬局      | ダスキン滝沢      |
| 池田薬局     | スタジオ稲場      |
| 大野組      | 昭和産業        |
| 村西運輸     | サバト家具店      |
| 倉澤組      | グランドホテル藤花   |
| 石田商店     | カメラの写楽      |
| 青野海産物店   | かまくん本舗      |
| 清水金物店    | いろは肉店       |
| 須磨スポーツ   | アキ写真店       |
| 森実商店     | (株)坂下組      |
| 新光電気     | ばらドライクリーニング |
| 松前陶器店    | なよろ温泉サンピラー  |



懇親会での「コマ



最後に締めをいただいた  
藤原元教育長





# さわやかな若い波

## 「集中之行」

阿部 麻里奈  
(名高六十期)



私は、平成17年4月に名寄高校に入学し、平成20年3月に卒業した第60期の卒業生です。卒業してから5年という月日がたち、時間の流れの早さを感じます。高校卒業後は名寄市立大学へ進学し現在は名寄市内の病院で看護師として働いています。まだまだ覚えることも沢山あり、大変ですが若い頃からの夢だったので日々楽しく働いています。

私の高校3年間を振り返ると、多くの思い出がよみがえってきます。名寄高校の合格が決まった時、新聞局の方からインタビューを受けました。どんな高校生を送りたいか、と尋ねられた時に私はとっさに「友達を100人作りたい。」と小学生のような回答をしたのを覚えています。これまで人数の少ない学校にいたため、同級生が160人いるということが私にとってとても新鮮で、これからの高校生活に期待と希望で胸がいっぱいになりました。入学してからは、難しくなっていく勉強や、科目の多い試験に心が折れそうになったこともありましたが、合格点まで到達しないと何度も何度もテストを受け続けなければいけない数学の馬拉ソン追試では、なかなか合格できず、次々と合格していく友人達を横目に悔し

涙を流したこともありましたが、看護師になることが夢であったため、成績の悪い私は受験勉強に大変悩まされました。模試を受ける度に志望校の合格点には達せざいともE判定ばかりで、どうしたら良いのかわからず、自信もつかず、諦めたくなりました。それでも必死に頑張ればセンター試験までに現れるという「名高曲線」を信じ、勉強の毎日でした。同じく受験に挑む友達に支えられながら、自分の志望の大学に合格した時は本当に嬉しかったのを覚えています。勉強嫌いの私が大学に入学できると思っていなかったため一番自分が驚いてしまいました。当時担任だった宮崎先生が「阿部なら大丈夫だと信じていた」と話してくれました。名寄高校の先生方は、本当に熱心に何度も何度も指導してくれ、励ましてくれた先生ばかりで、感謝しています。

また、私は部活動では、剣道部に所属していました。信頼できるかけがえのない仲間達、尊敬できる先輩方、毎日熱く指導してくれる先生との出会いがありました。毎日、厳しい練習が続く、夏休みには朝5時から練習、苦小牧への地獄のような合宿など、辛いことも沢山ありましたが、それでも、試合で勝った時には辛い練習を忘れるくらい嬉しかったのを覚えています。遠征で様々な地域に行くこと、全道大会で他の学校の友人達に会うことが私の楽しみになっており、部活を通して、多くの仲間達に出会うこともできました。そして、何よりも目標に向かって頑張ること・諦めないこと・努力することの大切さを部活動で学びました。高校3年間の中で、楽しい思い出は数

えきれないほどありますが、それと同じくらい勉強・部活・友人関係などで悩むことも沢山ありました。そのたびに道を示してくれる先生方、支えてくれる友人など、多くの人との出会いがあり、それが今の私に繋がっているのだと思います。現在は、看護師として2年目を迎えています。日々勉強の毎日ですが、患者さんとかかわっていく中で「ありがとう」と言われると日々の疲れも癒され、看護師になって良かったと仕事にやりがいを感じています。これからも、患者さんのために笑顔で親切な看護師を目指して努力していきたいと思っています。仕事でも勉強でも、何事に対しても一生懸命全力で頑張りたいと思う私の原点は名寄高校の校訓にある「集中之行」にあります。

北海道新聞 ひと2013より  
**技能五輪国際大会に出場する**  
(名高六十一期) 林 香  
23歳以下の若手技術者が腕を競う昨年の第50回技能五輪全国大会(10月26、29日、長野県松本市など)家具部門に出場、道内選手でただ一人、最高の金賞に輝いた。7月の国際大会(ドイツ)への出場も決まった。課題の家具を規定の時間内に、正確かつ美しく仕上げる技術などが試される。



で勝負。筋力を付けられないと、体力のある外国勢に太刀打ちできないので。外したバンドにしつとりと汗がにじんでいた。小学生の時、見よう見まねで木のからくりおもちゃを完成させ「木で何かを作る人になろう」と夢を抱いた。家具職人を志し、旭川高等技術専門学院から旭川家具の代表企業カンテイハウスに昨春入社。椅子の脚など部品の仕上げや組み立てを任されている。

何十個の部品の研磨も黙々とこなす。仕事は細やかさのほかに体力、忍耐も必要だが、「木が好きなんです。木目の美しさを、加工後の滑らかな手触りも」。楽しんで仕方がないという様子だ。  
旭川市内の社員寮で暮らす。「おしゃべりな店よりホームセンターで工具や木材を眺めるのが好き」。21歳。  
北海道新聞平成13年1月6日付  
\*技能五輪全国大会について  
40職種、約1000名の若手技術者が出場する大会。林さんは、前年は銅賞を受賞し、2度目の挑戦で栄冠をつかんだ。  
\*技能五輪国際大会について  
50カ国、約1000名の若手技術者が2年に一度、46職種の技を競う大会。

# 名高の活躍

## 看板でPR 同窓会が寄贈

【名寄】名寄高校同窓会（山崎博信会長）が、学校の活躍を地域に広く発信してもらおうと、校名入りの看板を同校に寄贈した。

看板は縦1・4メートル、横7・2メートル。11年連続で全国高文連へ参加している新聞局、全国高校総体へ出場した陸上部とスキー部の活躍をたたえるパネルを貼りつけ、昨年末に校門近くに設置した。費用は約65万円。

1月18日は山崎会長・猿谷幹事長の2人が同校を訪れ、「学校の活動を存分にPRしてほしい」と激励。千原治校長は感謝の言葉を述べ、今後は時期に応じて部活動の成績や学校祭の日程などをパネルで掲示していくと説明した。

（北海道新聞平成25年1月19日）



目録を校長に渡す山崎会長



贈呈式後、PR看板前で

左端より千原前校長、猿谷幹事長、山崎同窓会長（中央）と同窓会事務局



7月の学校祭の日程を掲示している看板

### 同窓会報第47号の原稿募集

平成26年7月25日発行予定の同窓会報47号の原稿と広告を募集しています。会報の掲載内容は、同窓会各員や各支部地区役員、同窓生個人の原稿、旧職員の原稿、支部たより、同期会たより、同窓生の活躍状況などがあります。寄稿先は事務局（〒096-0071 名寄市字徳田204 名寄高校同窓会 TEL01654-316841 名寄高校 伴井）までご連絡下さい。原稿は各自のパソコンで作られたものでも、手書きでもかまいません。写真は使用後に返却いたします。

今後も、同期会だよりや同窓生の活躍状況などを積極的に掲載させていただきます。どうか考えていますので、ご協力よろしくお願いたします。

### 平成25年度及び26年度総会日程

今年度（平成25年度）の本部総会・懇親会は、平成25年10月11日（金）18時30分からランドホテル藤花で開催されます。当番幹事は、名高29期、39期、49期の方々です。

また、来年度（平成26年度）は、名高30期、40期、50期の方々による当番幹事で、平成26年10月10日（金）18時30分からランドホテル藤花で例年通り開催される予定です。

### 編集後記

今年の3月に広島県に住む名高女1期（明治24年9月20日生まれ）の方をお世話しているヘルパーの方からお手紙をいただきました。「利用者の方が名高女の話に懐かしさを感じ、同級生の名簿が欲しい」とのこと。80周年記念で作成した同窓会名簿を見ると、確かに名前があります。早速、名高女1期生の名簿と共に、50周年記念誌の名高女に関するページをコピーして、お送りしました。

その後、御礼の返事（ヘルパーの方の代筆です）が来しました。「名簿をくいいる様に見せていただきました。今度、同窓会に一度出席させていただきます。お知らせ下さい。」とのこと。

この9月で102才になられるとのこと。実際には広島県からなかなか名寄まで来るとは難しいと思われます。ただ、人生の中で最も輝かしい青春時代の思い出が、活力になると感じさせてくれました。あらためて同窓会の持っている力を思い起こしました。

なお、今年度から47期の瀧川基幸先生（体育）、53期佐々木弘道先生（理科）、55期早坂美紅先生（英語）、61期千葉絢貴公務補が赴任され、同窓生としては全部で8名の職員が勤務しています。